



この夏、心を動かされたことから

校長 細井 歩



この夏、甲子園で熱戦を繰り広げた高校球児たちの姿に、たくさんの方が心を動かされたのではないのでしょうか。神奈川県代表の横浜高校は、優勝候補の一つとして注目され、見事に準決勝まで勝ち進みました。しかし、8月20日の準決勝で智辯学園和歌山高校に敗れ、決勝進出はなりませんでした。

わたしは、この試合の後に横浜高校の村田監督が語った言葉が心に残りました。

「3年生がここまでよくやってくれた」「3年生に感謝の気持ちでいっぱい」

優勝を逃した直後の言葉です。悔しさは、きっと言葉では言い表せないほど大きかったと思います。それでも、監督がまず口にしたのは、選手への「感謝」でした。

小野主将は、「最高の仲間に恵まれて野球ができた」と振り返りました。そして、エースの織田投手も、「負けた瞬間が一番に、スタンドで応援してくれている仲間の顔が浮かんで、本当に申し訳ないなって気持ちがすごく大きかった」と述べています。

では、横浜高校の選手たちは、優勝できなかったから「夢をかなえられなかった」のでしょうか。わたしは、そうではないと思います。甲子園という舞台に立つまでに、そして立ってからも、夢に向かって仲間と目標を共有し、よいときも苦しいときも努力し、支え合い、たくさんの人に応援してもらった。その一つ一つの経験こそが、これからの人生につながる大切なものになっていくのではないのでしょうか。



わたしたちの学校生活にも、通じるところがあります。

これから運動会に向けて、学校や学年、クラスで目標を決め、練習を重ねていきます。もちろん、勝ち負けや記録も大切です。でも、それだけが大切なものではありません。

友達と励まし合ったこと。うまくいかないときに助けてもらったこと。誰かのために自分が頑張ったこと。応援してくれる人の存在に気付くこと。そうした経験の一つ一つが、自分を成長させてくれます。「勝つこと」だけではなく、「仲間とともに目標に向かって努力すること」。そして、そこに関わってくれた人への「ありがとう」を忘れないこと。

この夏、甲子園で戦った高校球児たちから、わたしたちもそんな大切なことを学んだように思います。夏休みに、子どもたちはどんなことに心を動かされたのでしょうか。

さあ、折本小学校の秋も始まります。友達と力を合わせ、一人ではできないことにも挑戦し、互いの頑張りを認め合いながら、みんなで目標に向かって進んでいきましょう。